

「第17回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議」と 「第9回学術情報処理研究集会」の開催報告

総合情報基盤センター長 渡辺義明

平成17年9月15,16日に佐賀大学において、「第17回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議」と「第9回学術情報処理研究集会」が開催されました。

この会議は、国立大学に設置された情報処理センター間の技術的相互交流・情報共有を図るため、持ち回りで年1回開かれています。法人化前には、省令化された情報処理センター（学術及び総合情報処理センター）間の交流でしたが、法人化後は、独自に組織整備を行ったセンターにも参加を呼びかけています。今回は、全国45大学から1日目73名、2日目79名の参加がありました。

1日目（9月15日）は、午後から研究交流・連絡会議が開催されました。前もって以下のような議題についてアンケート調査を行い、これを資料として各大学での取り組み状況の報告と意見交換を行いました。どれも各センターにとって切実な課題であり、活発な意見交換ができました。

ネットワークセキュリティ対策、ネットワークインシデント対応、教職員のネットワークリテラシー、持ち込みPC等の運用方針、学生のPC購入の義務化・奨励、持ち込みPC等接続ネットワークのセキュリティ確保、情報処理教育におけるセンターの役割、学術計算機システムの役割、情報ネットワーク機器の管理・運用・更新、大学全体のIT化（セキュリティ対策を含む）を推進する組織とセンターの連携、大学におけるセンターの役割と今後の課題、組織の改組、先進的取り組み、予算の確保、会議名称と参加範囲、その他

2日目（9月16日）には、学術情報処理研究集会が開催され、17件の発表が行われました。また、これに合わせて、査読付き原著論文と本研究集会の講演発表予稿をまとめた論文誌「学術情報処理研究No.9」を発行しました。論文誌のWeb版は当センターのホームページから迎えることができます。

研究内容には、スパムメールやネットワーク認証など、セキュリティに関連したものが多く、また他もデータベースや遠隔接続など、情報処理センターの業務を通じて得られた知見が多く含まれています。

研究交流・連絡会議は、各情報処理センターが抱える悩みや課題を、同じ立場で意見交換できる点で有益ですし、また、学術情報処理研究集会は、センター業務と研究活動を両立する必要があるセンター教員にとって、研究発表・議論の良い機会だと思います。

このような有意義な会議が無事に開催できましたことを喜んでおります。会議の準備や当日の作業にご協力いただいた方々に、深くお礼申し上げます。